

## CO<sub>2</sub>削減マニフェスト(取組内容)

大項目	小項目	具体的取組	2020年度までの数値目標
事業所の省エネ	エネルギー管理体制	自パートナー企業開発の遠隔監視システムでの運用管理	ユーザー数 3000社
		同時に自社開発した電力の需給バランスを調整し、それを小さな蓄電池がサポートするシステムを持つ	社会実験中
		新規にバイタル見守りシステムで高齢者施設を社会福祉法人と共同で運用管理	ユーザー数 2施設
	空調・換気	地中熱等の自然エネルギー利活用の住宅施設設計と施工	40棟
		地中熱による空調エネルギーの削減	30%
		屋上ウインドロック敷設による空調エネルギー10%削減	2施設
	ボイラー・給湯		
	照明・昇降機	工場や倉庫等の水銀灯をLED化する工事	10施設
		店舗等のLED化工事	4店舗
事務用機器・業務用機器・産業用機器			
再生可能エネルギー・コージェネレーションシステム・建物の断熱等・BEMS	当協議会開発の「9坪ハウス」に3KWの太陽光発電システムと蓄電池を付けた「タイニーハウス」を復興支援住宅として提供	40棟	
	地中熱と屋根の構造的温度差を活かした「地中熱利活用システム」で、空調に頼らないシステムを持つ	40棟	
	断熱材にはウッドファイバーを使い、間伐材の建物、端材で創った樹の煉瓦を敷き、木のリサイクルを実現した商材	3棟	
自動車	EV時代に沿った急速充電器の普及を「低炭素モデル地区」に認定された「錦二丁目」に行うことに努めている。	1基	
	自動車そのものはPHVEを中心とした普及を自協議会の社用車として購入予算設定中	1台	
	先のタイニーハウスを通してのまちづくり活動には、必須のアイテムとして「女川」「東松島」「石巻」に提案中	3基	
低炭素な製品・サービス	購入	超軽量のPVメーカーのご後援でサービス価格で購入が可能となり、安価で提供が出来るようになった。	10%低コスト
		間伐材端材の樹の煉瓦の普及と敷設で、ヒートアイランド対策を為し、空調エネルギーコストの低減を図る。	30%
		バイタル検知システムの導入で、社会福祉法人の安心見守りシステムの強化・拡販	4棟
	製造・販売・提供	エネルギー需給制御システムの普及と拡販	3機
錦二丁目で勤めている「マイクログリッドEMS」によるエネルギーのシェアリングの具体化を具現化 樹の煉瓦を、愛知県森林リサイクル事業の補助金で工場を建設し、普及と新たな産業の振興を促す。(東栄、設楽町、豊根村) ローコストPV発電システムと蓄電池等のセットシステム普及による低炭素化住宅であり、スマートグリッドの原点である。		？ 町役場への提案	
運送・廃棄	リサイクル事業社とのコラボで、建屋からの廃材を有効活用するシステムを構築し、CO <sub>2</sub> の固定化を加速する	リサイクル率10%	
従業員教育・社会貢献	従業員への啓発	徹底した低炭素化の手法を共有し、その施工や保守・保全での有効性を検討し、経済性を検証する 新たな普及先である「社会福祉法人」への提案商材の教育と普及の克服課題を明確にする	EPCS研修 EPCS研修
	社会貢献	生活ゴミ、食物残渣から生まれる「バイオークス」の仕組みの普及と、行政での受け入れ方の研究 Jクレジット制やカーボンオフセットに変わる「CO <sub>2</sub> の固定化」での効用を説き、新たな取り組みを促す	近畿大学
その他	保守・保全サービス		150施設
	添付に記載	それらを効果的に行うのは「遠隔監視システム」であり、そのデータ解析による予防保全を行うことで、保全費を低減する	10%コスト低減

## 一般社団法人アースパートナー協議会の事業

当協議会は2009年愛知の中小企業家達が、次世代の環境を良くする目的で立上げ、「低炭素化社会の実現を標榜」することとなった。  
「その普及と啓蒙」を担うために2011年法人化した異業種の団体である。  
その中心は当初は自然エネルギーの利活用であり、太陽光発電設備の施工が主体の事業体でした。  
その他、LED照明灯の設置、急速充電器の設置、各種設備の省エネ化の設計施工・保守を行っていた。  
折しも3月、東北大震災の支援を行うこととなり、緊急用LED街路灯を設計製作、寄贈、保守を行うことになった。

「個の省エネ」をベースに低炭素化やCO<sup>2</sup>削減に取り組んできたが、地球の温暖化対策には、仲間と共に、地域を挙げて取り組まねばならないことに気づき錦2丁目単位で取り組むこととなった。

取り組み範囲は、省エネ建築物やエネルギーの有効活用の他、車に頼らない、風・水・みどりを活かした暮らしなどである。

キーワードは「シェアリング」=Share is LOVE（分かち愛）です。

結果、名古屋市の低炭素まちづくり構想に応募し、当地、錦2丁目まちづくり協議会が、2015年2月16日に認定されることになりました。

その考え方が復興支援先の宮城県石巻市、東松島市、女川町にもご理解をいただき、新たな「低炭素まちづくり」が始まりました。

他方、CO<sup>2</sup>削減だけでなく、CO<sup>2</sup>の固定化にも大きく取り組みました。  
都市の木質化で、県産材の建築物だけでなく、ベンチや歩道、店内装飾等も手掛け、東北では被災者の復興住宅のスマート化にも貢献し、現在もそれが続いている。

最近では、食物残渣等からエネルギー源を産み出すバイオコークスの用途研究にも取り組んでいます。

エネルギー資源が乏しい我が国では、こうした「個の活動」から「地域の活動」へ、各人から団体・組織のご理解を得ながらの着実な歩みが大切と考え日々精進をしています。

2017年11月 記